

稲作情報(Vol.7)

平成30年9月7日
宮城県石巻農業改良普及センター
石巻地方米づくり推進本部
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/

ひとめぼれ（出穂期8月1日）の刈取適期は、9月11日～19日頃の見込み

気象経過

◎ 期間をとおして気温は平年より高めで、日照時間も平年並から多めでした。降水量は変動が大きく、6月と7月はかなり少なくなりましたが、8月は平年の約2倍になりました。

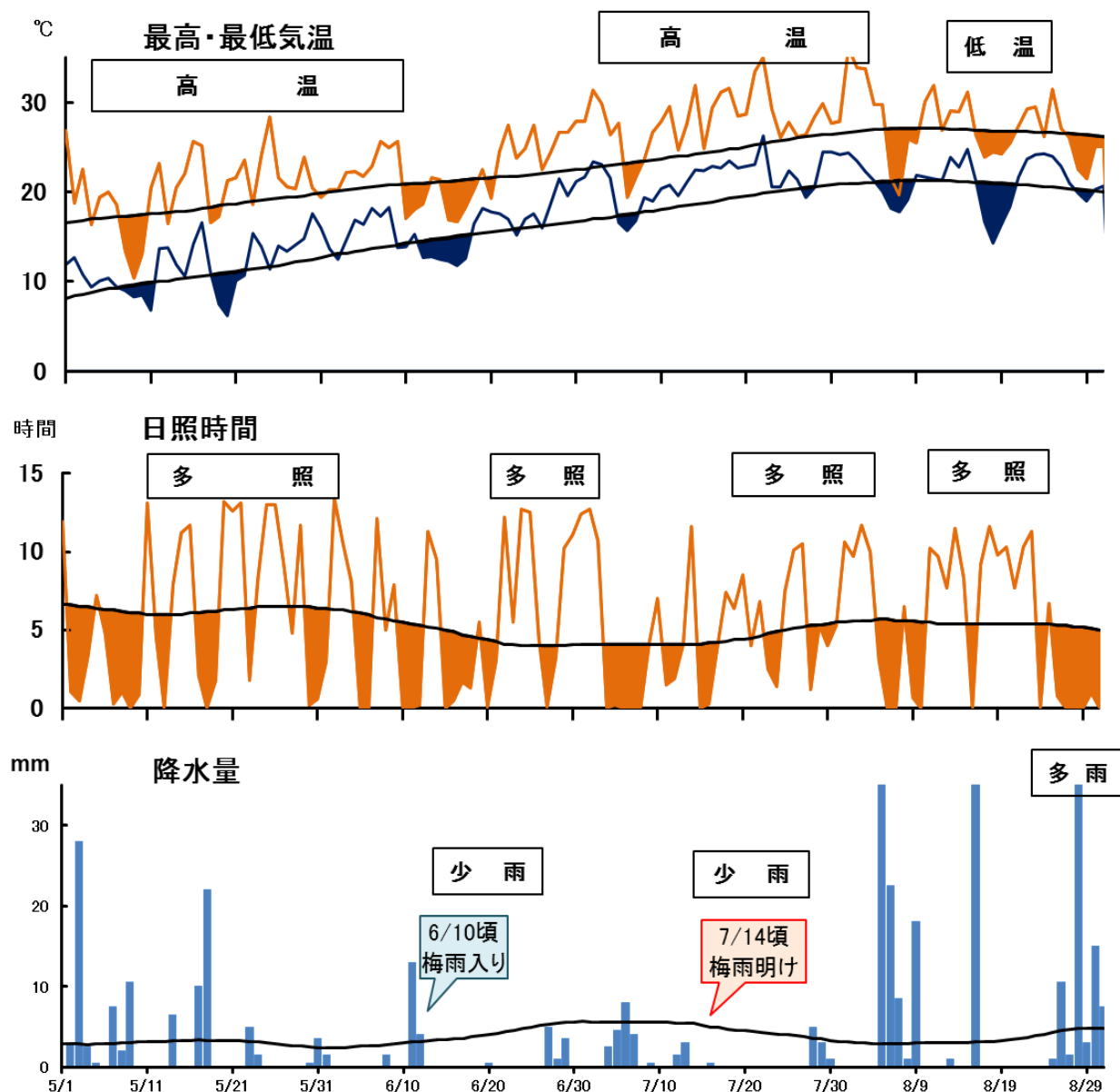


図1 平成30年の稲作期間の気象経過(アメダス石巻)

表1 月別 平均気温, 日照時間, 降水量(アメダス石巻)

	5月			6月			7月			8月		
	本年	平年	平年差・比	本年	平年	平年差・比	本年	平年	平年差・比	本年	平年	平年差・比
日平均気温 (°C)	15.5	14.0	+1.5	18.9	17.7	+1.2	24.2	21.4	+2.8	23.9	23.5	+0.4
日照時間 (時間)	185.0	193.2	96%	170.9	149.9	114%	151.3	138.0	110%	185.4	167.3	111%
降水量 (mm)	122.5	92.3	133%	30.0	113.9	26%	33.5	148.2	23%	226.5	115.8	196%

管内の出穂状況

～ 管内の出穂期は8月1日 ～

◎ 本年の水稲の出穂盛期は管内平均で平年並みの8月1日となりました。

北部平坦と仙台湾岸も出穂盛期は8月1日となりましたが、三陸沿岸は田植時期が遅いことや気温が低いことから8月10日となりました。

表2 管内の出穂状況

地帯区分	出穂始期 (月日)	出穂盛期 (月日)	出穂終期 (月日)	
北部平坦	7月29日	8月1日	8月6日	
仙台湾岸	7月28日	8月1日	8月7日	
三陸沿岸	7月31日	8月10日	8月14日	
石巻地域 (平年差)	7月29日 (±0日)	8月1日 (±0日)	8月10日 (±0日)	
宮城県	7月28日	7月31日	8月9日	(参考1) 稲作地帯区分

※ 出穂始期、出穂盛期、出穂終期は、それぞれ水稲作付見込面積の5%、50%、95%以上が出穂期に達した日。平年値は、過去5か年平均。

生育調査ほの生育状況

◎ 出穂期は、平年より1～2日遅くなりました。

◎ 穂揃期の止葉葉色は、平年よりやや薄くなりました。

◎ 稈長及び穂長は、平年並みとなりました。

◎ 穂数は、ひとめぼれが平年並み、ササニシキは平年より少なくなりました。

表3 生育調査ほの生育状況

品種	調査ほ場	移植日 (月/日)	出穂期(月/日)			止葉葉色 (SPAD) (穂揃期)			稈長 (cm)			穂長 (cm)			穂数 (本/m ²)		
			前年 差	平年 差	前年差	平年差	前年 比 (%)	平年 比 (%)	前年 比 (%)	平年 比 (%)	前年 比 (%)	平年 比 (%)					
													前年差	平年差	前年差	平年差	前年差
ひとめぼれ	石巻市広瀬	5/5	8/1	-3	0	28.1	-2.7	-2.4	85.3	106	104	17.8	105	102	464	111	100
	東松島市小松	5/5	8/2	2	2	30.6	-5.1	-1.8	76.4	99	100	18.0	104	101	442	94	101
	平均	5/5	8/3	3	2	29.4	-3.9	-2.1	80.9	103	102	17.9	104	102	453	102	101
ササニシキ	石巻市桃生町寺崎	5/10	8/5	-1	0	28.6	-2.4	-1.2	73.2	90	95	17.7	104	103	343	94	74
	石巻市井内	5/8	8/5	2	2	34.6	-1.6	-1.3	81.6	96	101	18.0	105	101	482	96	107
	平均	5/9	8/5	1	1	31.6	-2.0	-1.2	77.4	93	98	17.9	105	102	413	85	90

※ 平年値は過去5か年平均。

乾田直播展示ほの生育状況

◎ 出穂期は、概ね平年並みの8月11日となりました。

◎ 稈長、穂長は概ね平年並ですが、穂数は平年よりやや多くなりました。

表4 乾田直播展示ほの生育状況

品種	調査ほ場	年度	播種日 (月日)	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	止葉葉色 (SPAD)
ひとめぼれ	石巻市桃生町寺崎	本年	4/3	8/11	82.0	18.8	449	31.8
		前年差・比	+2	-5	117%	99%	192%	-3.9
		平年差・比	-21	+1	103%	101%	106%	-0.8

※ 平年値は平成24年から平成28年までの5か年平均。止葉葉色は穂揃期。

だて正夢展示ほの生育状況

- ◎ 出穂期は8月2日で生育調査ほのひとめぼれより3日遅くなりました。
- ◎ 稈長・穂長はひとめぼれより長く、穂数は少なくなりました。
- ◎ 止葉葉数はひとめぼれより多く、止葉葉色は濃くなりました。

表5 だて正夢展示ほの生育状況

品種	調査ほ場	移植日 (月日)	出穂期 (月日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	止葉葉数	止葉葉色 (SPAD)
だて正夢	東松島市	5/3	8/2	86.8	19.8	358.4	13.4	35.1
ひとめぼれ	小松	5/5	7/30	76.4	18.0	441.8	12.9	30.6

※ 止葉葉色は穂揃期

今後の管理

～ ほ場をよく観察し、適期刈取りに努めましょう！ ～

1 積算気温による刈取適期の目安

- ◎ 本年の積算平均気温による刈取適期の目安は表6のとおりです。

表6 本年の積算平均気温による刈取り適期の目安（ひとめぼれ）

		7月29日	8月1日	8月4日	8月7日	8月10日	8月13日
目安	刈取早限	9月7日	9月11日	9月15日	9月18日	9月22日	9月26日
	刈取適期	9月10日	9月14日	9月18日	9月21日	9月25日	9月29日
	刈取晩限	9月15日	9月19日	9月23日	9月26日	9月30日	10月5日

※1 出穂後の積算平均気温が、刈取早限940°C、刈取適期1,000°C、刈取晩限1,100°Cを超えた日とした。

※2 アメダス石巻の8月31日までは実測値、9月1日以降は平年値を使用した。

- ◎ 管内全体の出穂期が8月1日であったことから、中生品種の刈取適期は9月11日～9月19日頃と考えられます。ただし、積算気温による刈取適期の判断は目安の1つですので、「2 ほ場毎刈取適期の判定」とあわせて、ほ場ごとによく観察して刈取時期を判断してください。

2 ほ場毎刈取適期の判定

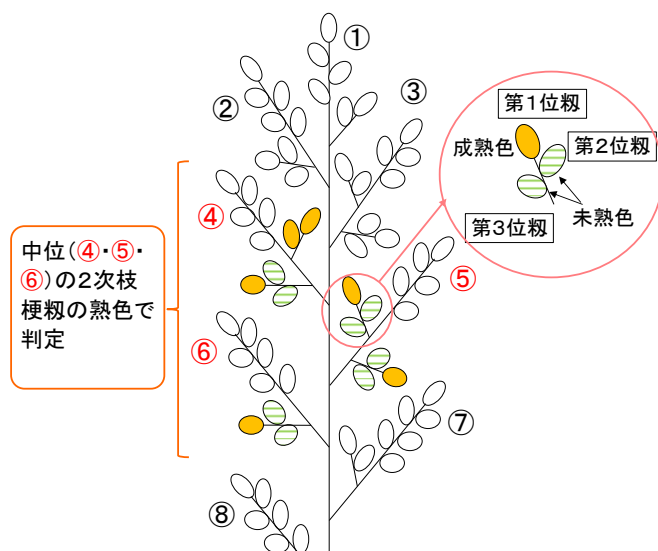
- ◎ ほ場毎の刈取適期は、次の①～③を参考として総合的に判定しましょう。判定の際は、葉色に惑わされないよう穂をしっかりと観察してください。

① 籾と穂軸の黄化程度

籾の80～90%が完全に成熟して黄色になり、穂軸が先端から1/3程度黄変した時期が刈取適期です。穂の基部にいくらか緑色の籾が残っている時期に刈取ると玄米品質が良好です。

② 籾の熟色経過（ひとめぼれ）

平均的な穂数を持つ株の中から、枝梗数8本の穂を選び、中位（4～6番目）の二次枝梗の籾の熟色を観察して判断します（図2）。



刈取早限	第1位籾がほとんど黄化し(95%)、第2、3位籾が黄化開始
刈取適期	第1位籾の黄化100%、第2、3位籾が30%黄化
刈取晩限	第2、3位籾が50%以上黄化

図2 籾の熟色経過からみた刈取適期

③ 籾水分

刈取早限～刈取晩限における稔実籾の平均水分の目安は25%～21%です。

3 刈取作業の注意点

◎ 管内では、例年刈取盛期が刈取適期より10日程度遅く、刈遅れが目立っています。刈遅れは、白未熟粒増加による整粒歩合の低下や（図3）、玄米光沢の低下、穂発芽、胴割粒の発生要因となるので、刈遅れの少ないよう計画的な作業を心がけるとともに、作業時は以下の点に留意してください。

① コンバイン等の清掃を徹底し、異物や異品種の混合防止に努める。

② 倒伏したほ場では、刈取早限に達したら早めに刈取る。また、倒伏箇所は刈分けし、未熟粒や穂発芽粒の混入を防ぐ。

◎ ツククサ（写真1）やクサネム（写真2）と一緒に刈取ると、その種子が玄米に混入し、ライスグレーダーでは完全に除去できないので、ほ場で見つけたら刈取作業前に除去しておきましょう。

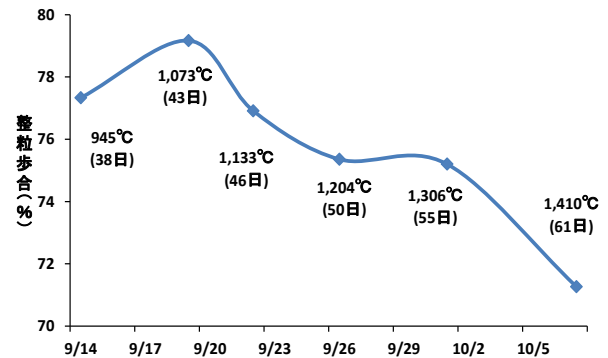


図3 刈取時期と整粒歩合の関係
(H24古川農試, 5/10移植ひとめぼれ)



写真1 ツククサ(右は種子)



写真2 クサネム(右は種子)

4 乾燥・調製

◎ 乾燥・調製作業は次の点に注意し、高品質米生産を心掛けましょう。

① 乾燥機等の清掃を徹底し、異物や異品種の混入防止に努める。

② 刈取った籾は放置すると発熱して変質米となるので、速やかに乾燥機に張り込んで送風する。やむを得ず一時貯留する場合は、通気性の良いスタンドバッグ（網袋）やモミクーラー（簡易通気装置）等を利用する。

③ 仕上げり玄米水分14.5～15%を目標として乾燥・調製する。また、過乾燥は胴割米の発生や碎粒の増加、光沢の低下などの要因となるので、水分測定をこまめに行う。

④ 籾水分の測定は、未熟粒を取除いたサンプルで3回以上行う。また、最終的な籾水分は、籾の温度が常温まで低下してから測定する。

⑤ 倒伏したほ場を刈取ったときや、刈取った籾に未熟粒が多いときは、二段乾燥（18%程度になったら火力乾燥を中断し、一定時間通風循環で水分を均一にしてから、仕上げ乾燥）に

より品質低下を防ぐ。

- ⑥ 粳摺りは、肌ずれ防止のため、粳の温度が常温まで下がってから行う。
- ⑦ ロール式粳摺機の場合は、品種（粳の大きさ）に見合った適正なロール間隔に調整する。

【胴割粒の発生防止について】

- 胴割粒は、農産物検査における落等要因となり、軽微な胴割でも炊飯前の水漬けによりひび割れするため、食味を低下させます。
- 胴割粒発生の原因として、①登熟初期（特に出穂後10日間）の高温、②刈遅れ、③高温による急激な乾燥や過乾燥が考えられます。胴割粒の発生を防ぐため、適期刈取と適切な乾燥調製に努めましょう。

【農作業事故に注意！】

- 機械の点検は、エンジンを停止してから行うなど、作業の安全に努めてみましょう。
- トラクター、コンバインでのほ場への出入りやあぜ越えの際は、慣れた場所でも基本を守り慎重に操作しましょう。
- 県内では、毎年死亡事故を含む農作業事故が発生しています。特に事故の発生しやすい刈取作業は、必ず二人以上の組作業とし、事故防止を心がけましょう。